

## 会長挨拶

鳩 貝 太 郎

本日は第 25 回全国学校飼育動物研究大会にご参加いただきありがとうございます。

2020 年の研究大会はコロナ禍のため中止とし、2021 年と 2022 年はオンラインで開催しましたが、今年は 4 年ぶりに発表者と参加者が交流できる会場開催にこぎつけることができました。しかし、これまで行ってきたオンライン開催のメリットも大事にしたいと考え、ハイブリッド開催といたしました。本日、全国各地にてオンラインで参加されている方は 100 名近くになります。オンライン参加の皆様に心より御礼申し上げます。

さて、今回の研究大会のテーマは「動物愛護法から学ぶ命を預かる動物飼育」としました。私たちが飼育している動物たちに対する考え方は時代とともに変化してきました。ペットに対する意識や飼い方が近年大きく変化してきたことは皆さんもご承知のことと思います。学校での動物飼育も例外ではありません。

本日は、動物の愛護及び管理に関する法律（動物愛護法）の趣旨が社会に浸透してきた状況の中で、子どもたちの成長に大きな役割を果たしている学校での動物飼育の在り方について、参加者の皆さんと考えていきたいと思っています。

なお、本日のシンポジウムでは、文部科学省、

環境省、日本獣医師会及び全国生活科・総合的学習教育学会の関係者の皆様にシンポジストとしてご参加いただきました。各シンポジストは、それぞれの立場から学校での動物飼育に関わっていただいている方々です。皆様には、お忙しいところ今回のシンポジウムの開催に快くご協力いただきましたことに心より御礼申し上げます。

本研究大会は動物愛護法の下での学校における動物飼育の在り方を考える画期的な内容の大会にしたいと考えております。貴重な講演や意見交換ができ充実した研究大会になることと思います。本日は参加者の皆様には最後までご参加いただきたいと思っています。

最後になりますが本日の研究大会の開催に当たって、文部科学省、環境省、東京都教育委員会、日本獣医師会、東京都獣医師会及び日本小動物獣医師会から後援をいただいていることをご報告し、御礼を申し上げます。

それではこれから長時間の研究大会になります。がよろしく願いいたします。

（本会会長／国立教育政策研究所名誉所員／東京都立大学客員教授）